

Title	全学・学部横断での教育プログラムの企画・運営
Author	鈴木, 洋太郎
Citation	大阪市立大学大学教育. 19 卷 1 号, p.68-72.
Issue Date	2022-03-31
ISSN	1349-2152
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学教育研究センター
Description	
DOI	10.24544/ocu.20220318-008

Placed on: Osaka City University

全学・学部横断での教育プログラムの企画・運営

鈴木 洋 太 郎
大阪市立大学 副学長

1. はじめに一学士課程カリキュラムにおける「全学共通教育」と「専門教育」

私のほうは、「全学・学部横断での教育プログラムの企画・運営」というタイトルで、このような流れでお話ししたいと思います。(章末スライド1を参照)

私の話は、学士課程カリキュラムにおいて、ご存じのとおり、全学共通教育と各部局が担っている専門教育とがあるわけですが、この2つをいかに充実させていくか。特に専門教育のほうは、正直、私も商学部の教員ですが、各部局の先生方としては、非常に熱心に行いやすいものなのかなと思います。

ただ、全学共通教育につきましては、特に市大の場合には、府大に比べると、この全学共通教育を専門に担う教員の数が少ないということもありまして、各部局の先生方に手伝ってもらいながら行ってきましたが、なかなか専門教育のほうに忙しくて、専門教育に比べると、全学共通教育のほうに手が回らないというようなこともあって、これまで、いかに各部局の先生方に全学共通教育に積極的に関与していただいて、学士課程カリキュラム全体を充実させていくかということで、私自身もいろいろな形で関与し、悩んできたところがありますので、そういうところを中心にお話をさせていただきたいと思っています。

2. 全学共通教育の委員会運営と教科会議

(1) 全学共通教育教務委員会

全学共通教育を行うための委員会組織としては、市大の場合には全学共通教育教務委員会というものが中心となってきました。この委員会は大人数の組織でありまして、各部局・各研究科教授会から先生方に出ただけだけでなく、人権問題研究センター、大学教

育研究センター、都市健康・スポーツ研究センターからもそれぞれ先生方に出ていただき、後で説明します、各教科会議の議長の先生方にも出ていただいております。(章末スライド3を参照)

また、その他教育推進本部長が必要と認めた者という形で、今年度でありますと、教育の質保証を担当していただいている永村副学長に入らせていただいています。

ただ、この委員会は教務担当部長が行うということで、私自身は今、教育担当の副学長なのですが、この委員会の正規のメンバーでなく、オブザーバーという形で毎回参加させていただいています。

実は、私自身、もう今から十七、八年ぐらい前に、商学部の教務委員として2年ほどこの全学共通教育教務委員会に参画をしまして、またその後、教務担当部長としてこの委員会の司会進行を行ったこともあります。また今は教育担当副学長という形で、オブザーバー参加ですが、結構長くこの委員会に参加させていただいているのかなと思います。

(2) 教科会議

特に教科会議といったものが、実質的に全学共通教育の授業運営を行う上で、市大は、各部局の先生方にいかに全学共通教育に関わってもらおうかといったところが重要で、総合教育科目の(A)の教科会議は、基本的に各部局の先生方の持ち回りの形で、それ以外の教科会議もかなりいろいろな部局の先生方に議長を引き受けてもらいつつ、積極的にいろいろな意見を言ってくださいということになっています。(章末スライド4を参照)

前述のように、私がもう十七、八年ぐらい前に商学

部の教務委員になったときには、いろいろな教科会議にも参加し、例えば「情報と人間」という教科会議で、その当時から情報化の科目をもっと充実させなくてはならないということがあって、各部局からこの教科会議に私も含めて出て、どうしたらいいかと、これ以上もう人数は出せないと各部局の先生方は言いつつも、情報化の科目をいかに充実させるかという話を激論した記憶があります。

また、英語の教科会議も、かなりいろいろ激論があって、その当時は8単位8科目必修科目で、必修科目しかなかったのです。その後、必修科目は6単位6科目にして、その代わり、選択できる科目を充実させるという形やネイティブの先生を入れるという形で、どんどん英語に関しての変革も行われてきましたが、そういう取っかかりを教科会議では行っていません。

また、十二、三年前に教務担当部長になった頃は、きょうもお世話になっている大教センターの先生方が、本当にいろいろサポートといますか、全学共通教育の企画・運営のコアメンバーとして実際にさせていただいて、今も教育推進本部会議等も大教センターの先生方にコアメンバーに入っていたりして、大教センターの先生方、また、こういったFD研究会のようなもの絡めて、できるだけいろいろな部局の先生方にいかに関与してもらおうかということをやってきたのかなと思っています。

3. 学部横断科目の具体例

そういう中で学部横断的な科目をつくってきたのかなと思います。(章末スライド5を参照) 先ほどの情報関係の教科会議でいろいろ議論しながら、「情報化の光と影」という、理系も文系も各部局からできるだけ参加していただいて、オムニバス形式の授業を導入して、情報化が、理系から見た場合、また文系、いろいろな分野から見た場合、やはり光と影が違うので、多面的に見てもらおうと考えて、科目を作りました。

そういったオムニバス形式であれば、さすがに全部を担当というのは少し負担感があるけれども、1回だけということであれば、多くの先生が担当できるかなということで、割とオムニバス形式で学部横断型の科目をつくってきた経緯があるかなと思います。

「市大でどう学ぶか」についても各部局の学部長などが中心になって参画していただき、「研究者の世界へ」というのは学部時代から研究者のキャリアを知ってもらおうということで作られた科目ですが、これも文系・理系の各部局の先生方にご協力いただいてやっているものであります。

それ以外にも、都市関連の科目、広い意味での都市関連の科目になるかと思いますが、「大阪学」や「大阪の知」というようなものも、これまでにいろいろ企画したりしてオムニバスでやったりとか、関連の科目によっては、例えば経済学部と商学部と都市経営研究科の持ち回りでやったりとかいうような形も行ってきました。

4. 学部横断型プログラムとしての副専攻

こういった、各部局の先生方にどうにかこうにか、手伝ってくださいということで学部横断型の授業を充実させてきました。実は市大の副専攻もそういった側面が結構強いのかなと思います。CR副専攻(地域再生副専攻)、グローバルコミュニケーション副専攻が古くからあって、最近、人権のHR副専攻やCOILのSIコース(ソーシャルイノベーションコース)というの、そのような学部横断型としてつくられてきています。(章末スライド6を参照)

これ(章末スライド7)は、実は大教センターの資料で、新入生向けの副専攻のPR資料がありますが、そこでも大阪市立大学での学部横断的プログラムということをやっています。

ただ、この点については、きょう来ていただいている高橋副学長や西田副学長にも、本当にいろいろとお手数をおかけしており、こういう学部横断型プログラムをどんどん充実させるのが望ましいという、副学長としての立場があるのですが、ただ、私は商学部の教員なので、学部の教員の立場からすると、なかなか、学部の先生方に手伝ってもらおうということが本当にどこまでできるのかなというのが、少し心配なところがあります。新大学において、学部横断的プログラムとしての副専攻については、当初、新大学においては主専攻・各部局で責任を持つてするものであればいいけれども、こういう市大型のものが新大学でもできるの

かどうかといった議論もありましたが、来年度からは、もう後戻りできないので、このような市大型の学部横断型プログラムも、どうにかこうにか頑張っ軌道に乗せたいなと思っている次第であります。

5. おわりに

最後に、私の話は、学士課程カリキュラムにおいて、特に全学共通の科目をいかに各部局の先生に手伝ってもらおうかという話でしたが、これを新大学にいかに継承できるかどうか。私自身いいなと思うのは、やはり府大のほうは、全学共通の基幹教育を担う先生方の層が厚いので、府大型のよいところと市大型のよいところとをうまく融合した形で新大学の全学共通の基幹教育が実施できたら、ありがたいなと思っています。またどうぞよろしくお願いします。

私からの話は以上です。どうもありがとうございました。

第19回 FD研究会
全学・学部横断での教育プログラムの企画・運営

1. はじめに
2. 全学共通教育の委員会運営と教科会議
3. 学部横断科目の具体例
4. 学部横断型プログラムとしての副専攻
5. おわりに

鈴木洋太郎（大阪市立大学副学長）

1

1. はじめに

学士課程カリキュラムにおける
「全学共通教育」と「専門教育」

2

2. 全学共通教育の委員会運営と教科会議

【全学共通教育教務委員会】
…委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務担当部長
- (2) 各研究科教授会から選ばれた教員各1名
- (3) 人権問題研究センター研究員会議から選ばれた教員1名
- (4) 大学教育研究センター研究員会議から選ばれた教員1名
- (5) 都市健康・スポーツ研究センター教員会議から選ばれた教員1名
- (6) 各教科会議議長
- (7) その他教育推進本部長が必要と認めた者

3

【教科会議】
…全学共通教育の内容、教育方法等を向上させるため、委員会のもとに、全学共通科目を次に掲げる教科に区分して、各教科に教科会議を置く。

- (1) 旧総合教育科目(A)
- (2) 旧総合教育科目(B)科目群「人間と社会」
- (3) 旧総合教育科目(B)科目群「歴史と文化」
- (4) 旧総合教育科目(B)科目群「自然と人間」
- (5) 旧総合教育科目(B)科目群「情報と人間」
- (6) 旧総合教育科目(B)科目群「初年次教育」
- (7) 基礎教育科目(講義)
- (8) 基礎教育科目(実験)
- (9) 外国語科目(英語)
- (10) 外国語科目(その他の外国語)
- (11) 健康・スポーツ科学科目

4

3. 学部横断科目の具体例

「情報化の光と影」
「市大でどう学ぶか」
「研究者の世界へ」
※都市関連科目も

5

4. 学部横断型プログラムとしての副専攻

OCR副専攻
OGC副専攻
OHR副専攻
OSIコース
※副専攻運営委員会の設置も

6

大阪市立大学での学部横断的プログラム

大阪市立大学では、主専攻（それぞれの学部・学科で修める単位）だけでなく、さらに広く、深く、自発的な学修を進めたいと考える学部生を対象に、学部の垣根を超えた様々な教育プログラムが用意されています。

各プログラムの履修の仕方や、必要事項などの詳細については、全学ポータルサイトや入学手続き書類に同封されている「副専攻ガイド」等の書類をご覧ください。

SIコース Social Innovation

新しくSI（ソーシャル・イノベーション）コースがはじまりました。SIコースは社会的課題を発見し、解決するための力を養います。海外の学生と共に地域や福祉、環境などのテーマに従って知識を得て、現場を訪れ、意見を交換し、社会に貢献的に取り組む中で学びを進めます。学生の提案が実際に採用されるなど実践的な解決にも繋がっています。

●キーとなる科目：ソーシャル・イノベーション入門・実践活動演習

GC <small>Global Communication</small> 副専攻	CR <small>Community Engagement</small> 副専攻	HR <small>Human Rights</small> 副専攻
<p>●目的：不確実な社会で生き抜くことのできる語学運用能力とグローバルマインドを涵養する</p> <p>●キーとなる科目：GC総合演習 1/2/3</p> <p>●1年次必修：1年次演習</p> <p>●海外研修：GC_Int（GC副専攻専用カナダ・ヒクトリア大学語学研修）</p> <p>●1年次必修：英語検定試験、英語検定</p> <p>●成績優秀者・語学運用能力上位者には研修費支援制度あり</p>	<p>●目的：大層を拠点として、変化し続ける地域・社会の問題を解決するとともに、その発展に貢献できる人材を養成する</p> <p>●キーとなる科目：地域課題演習（GATSUN）</p> <p>（6/1・2年次必修）・アコースセミナー Ia/Ib/II（6/2年次以降必修）</p>	<p>●目的：グローバル化する社会において、多様な人々と互いを尊重しながら協力・協働できるリーダーを育成する</p> <p>●キーとなる科目：ワークショップと講義で学ぶ人権基礎講座（6/1年次以降必修）・人権問題研究演習 Ia/Ib/II（6/2年次以降必修）</p>

7

5. おわりに

○学士課程カリキュラムの見える化

○新大学への継承について

8